



に反する行いとして受け止められ
たはずで。

更なる疑問は、八咫鏡と草薙
剣のレプリカを造るために、大掛
かりな集団が結成されたことで
す。崇神天皇は齋部氏に命じて2
氏族を統率し、八咫鏡と草薙剣
の模造品を鑄造させたのです。鏡
と剣を一つずつ鑄るために、大
勢の製造者が必要になるとは考
えづらいことから、複数のレプリ
カを造るという指示により、2
氏族が任命されたのではないかと
考えられます。つまり、多くの模
造品を早急に造る必要があった
ことから、それらの製造に必要な
職人が大勢集められたのです。
次の垂仁天皇の御代では、垂仁
天皇の皇子により、剣が1000
本も製造され、石上神宮に納め
られたことも特筆に値します。

そこまでして、何故、神宝のレ
プリカを造る必要があったので
しょうか。また、本物の神宝を長
い年月をかけて、転々と広範囲の
地域を移動させた理由も不可解
です。神威を畏れたとするならば、
見知らぬ土地にとりあえず鎮座さ
せるのではなく、むしろ、新しい
鎮座の地が示されるまで、神が住
まわれる三輪山に神宝を奉納す
べきでした。それどころか、崇神
天皇は神宝を豊鍬入姫命に託した
後、自らは八十万の群神を祀ると
いう理由で、国々に社や神地、神
戸を定めるのです。神威を畏れる
あまりに神宝を手放し、それらを
祀る聖地が定まらずに転々として
いるというのに、天皇自らが神地、
神戸を定めて八十万の群神を祀る
ということは、理に適いません。

神宝が宮中から遷され、元伊
勢となる場所を転々とした理由
は、崇神天皇が神宝を畏れる余
り、恐怖感から手放してしまった
からではなく、むしろ、天皇の
畏れという言葉には、神威を誇
る大切な神宝が盗まれてしま
うことを危惧する意味が秘めら
れていると考えられます。神宝
に秘められた神威の噂は海外に
も伝わっていたと考えられ、そ
れを欲する者は国内外に複数存
在したことでしょう。そして国内
情勢が不安定になってきたこと
を機に、神宝が略奪される可

能性が高まってきたのです。

皇居が攻め込まれ、神宝が強
奪されるという最悪の事態までも
懸念した天皇は、神宝を安全な
場所に保全するため、早急に対策
を講じなければなりません。そ
の結果、多くのレプリカが製造
されただけでなく、神宝は転々と
各地を移動することとなり、いつ
の間にか、本物の神宝がどこに
あるのか、わからないようになって
しまったのです。これらの背景に
は、崇神天皇の「雄大な計略」が
存在し、念密な策が事前に練ら
れていたと考えられます。そして、
本物の神宝を上手く歴史のオプ
ラートに包み込み、安全な場所に
秘蔵することが目論まれたのでは
ないでしょうか。その謎を解明す
るために、まず、崇神天皇の時代
背景を振り返ってみましょう。

神宝が元伊勢を遷座した時代背景

天照大神と草薙剣が宮中から
遷され、豊鍬入姫命、そして倭
姫命へと託されたのは、崇神天
皇から垂仁天皇の時代、紀元前
1世紀頃の話です。その時代の日
本列島を取り巻くマクロの環境が、
どのように変化していたかを知る
ことは、神宝が宮中から遷され
たきっかけや、それに伴う元伊勢
誕生の背景を理解するうえで重
要です。そしてレイラインの考察
という、地域ごとの拠点を結ぶ
線の繋がりを検証することにより、
元伊勢となる地がどのように特定
され、それらの拠点を転々としな
がら最終的に伊勢へと向かわな
ければならなかったのか、その
理由が少しずつ見えてきます。

神宝が宮中から遷され、元
伊勢の誕生するきっかけとなっ
た要因は、国内情勢が不安定に
なったことにつきまします。当時、
アジア大陸の政変と、民族移動
による大陸からの渡来者の急増
により、集落の基となる人口構
成が激変したのです。その結果、
国内の社会情勢が不安定になっ
たことは、想像に難しくありませ
ん。特に大和国の東方には、朝
廷に従わない勢力が拡大し始め
ている兆しがあり、対策を考
える必要が生じていました。さら
に同時期、大和国の

西方では、海を隔てた四国の地
において、邪馬台国の芽が息吹
き始めていた可能性があること
も、覚えておく必要があります。

まず、アジア大陸の政変を発
端とする民族移動を考えてみま
しょう。紀元前210年、秦の
始皇帝による統治が終焉を迎え、
その後、多くの難民がアジア大
陸を東方に向かって移動したと
考えられます。中には、朝鮮半
島にまで到来し、そこから海を
渡り、日本列島まで到来してき
た人々も少なくありませんでし
た。歴史人口学の見地からして
も、弥生時代後期の日本列島に
おける人口の急増は、アジア大
陸からの渡来者なくては説明す
ることができません。その渡来
者の数は、弥生後期の数世紀に
かけて累計150万人、もしくは
それよりも多くの群衆が、大陸
から日本まで到来したと推定さ
れるのです。その移民の流れの
原動力となったのが、秦の時代
において、始皇帝の治世を陰で
支えた知識層を含む大勢の民で
あり、その背景には西アジアか
ら大陸を東方に向けて移住を繰
り返してきたイスラエル系の民の
存在が見え隠れしています。

記紀にも当時、大勢の移民が
大陸より到来したことが明記さ
れており、秦氏のように、中国の
魏志倭人伝に、名前まで記され
た一族もあります(「秦氏の正体」
参照)。渡来者の大半は朝鮮半
島から海を渡ってきました。中
でも秦氏は、高度な教養と優れた
文化、そして多くの富や財産を携
えて列島に到来し、日本文化の
発展に大きく貢献したのです。秦
氏は列島の随所に拠点を設け
ながらも、山城国周辺(今日の京
都)を最も重要視し、そこを本拠
地としました。秦氏はイスラエ
ルのユダヤ系渡来者であった可
能性が高く、その前提で考える
ならば、朝廷と対立するのではな
く、むしろその動きを擁護する
立場をとりながら、短期間で国内
の政治経済に大きな影響力を
与える存在になったと考えられ
ます。

これら渡来者の流入と時代の
変化を崇神天皇も察知していた
だけでなく、時には大陸系異
国民の存在を脅威に感じるこ
ともあったことでしょう。渡来
者の中には権力者も存在し、そ
の人脈と財力を用いて短期間に
拠点を列島内に設けただけでなく、
中には各地で権力闘争を巻き起
し、謀反を起こすような勢力に
まで発展した部族も存在しまし
た。日本書紀には崇神10年、
天皇の詔に、「然遠荒人等猶不受
正朔」というメッセージが含ま
れています。「広雅」と呼ばれる
3世紀中国の訓詁書には、「遠
荒」と記され、それは天皇が
天下を治めようとするに従わ
ない遠方からの人々を意味しま
す。

そのような反勢力が台頭し始め、
各地で謀反の兆候が見られる最
中、武埴安彦の乱のように都を
襲撃する群れもあり、官軍との
激戦が繰り広げられたのです。

渡来者の急増による人口構成
の激変により、国内情勢は不安
定になったことは言うまでもあ
りません。その後、畿内はおよ
そ平穏となるものの、遠方の地
域では騒動が止まらず、四道将
軍と呼ばれる皇族の将校が、北
陸、東海、西道、丹波の地を制
するために出兵しました。騒動を
起こした民は、日本書紀では戎
夷(ひな、じゅうい)と呼ばれ、
周辺の野蛮な民族を意味してい
ました。古代中国では異国民を蔑
視する意味で用いられていた言
語であることから、戎夷とは、単
に朝廷に従わずに反旗を翻した
住民を指すだけでなく、大陸より
渡来してきた異国民の集団の意
味も含まれていました。日本列島
各地に様々な緊張を生み出す要
因をもたらした戎夷は、崇神11
年に平定されます。そして、「異
俗多帰国内安寧」と日本書紀に
記されているとおり、大勢の渡
来者が朝廷に帰順して、国内に
やっと平穏が訪れたのです。

四道将軍が国内を制圧するた
めに出兵した地域は北陸以南の
本州に限られ、四国と九州は含
まれていないことにも注目です。
同時期、邪馬台国が日本のどこ
かで産声を上げ、その後、2世
紀もかけずに日本を統治する巨
大国家となり、海外にまでその
名を知らしめることとなります。
四道将軍が派遣されず、彼らの
目が行きとどかなかつた四国
については、記紀にも殆どコメ
ントがないだけに、誰も気がつ
かぬうちに、長い年月をかけて
邪馬台国の前身が四国にて息吹
いていた可能性があります。そ
して四道将軍が戎夷を平定する
5年前、不穏な空気がまだ国内
に漂う最中、崇神天皇は重大な
決断を迫られていたのです。

神隠しを演出した古代人の知恵

前2世紀頃から急増した大陸
からの渡来者の波は衰えを知ら
ず、渡来者の中には朝廷に対
抗して反旗を翻す有力者も少
くありませんでした。その結果、
国内では動乱の兆しが各地で見
られるようになり、さらに国民
の多くが伝染病で亡くなり、人
口が急減するという危機的状況
に陥りました。また、宮中で祀
られていた神宝は皇位継承の証
であり、国を治める権利の象徴
でもあったことから、それを欲
する反勢力による強奪事件が
いつ発生するかもしれず、内政
の舵取りが極めて難しい局面を
崇神天皇は迎えていたのです。

社会情勢の激変を察知し、神
宝の安否を危惧した崇神天皇は、

神宝が盗難されるという最悪の
事態を避けるための秘策を練
ったと考えられます。まず、神
宝の模造品を製造することを決
めました。そして宮中では神宝
のレプリカが祀られるようにな
り、本物の神宝は皇居から遷さ
れた後、三輪山の麓にある大和
国の笠縫邑で祀られ、その後33
年という長い年月の間に、三輪
山の山頂に埋蔵された神宝が少
なりとも掘り起こされた可能
性があります。笠縫邑の比定地候
補である檜原神社や穴師坐兵主
神社は、三輪山の山頂へのアク
セスが大変良い山の麓にあるこ
とから頻繁に行き来があったに
違いなく、三輪山でさえも不信
心な掠奪者による攻略の危機
に迫られていたと考えられるか
らです。いずれにしても、崇神
天皇は大切な神宝を守るための
「計略」を実行に移し、レプリ
カの製造により、本物の神宝と
の見分けを難しくしたのです。

神宝を守る次なる手段は、朝
廷の権力が行き届くエリアの中
で、神宝を遷し続けながら、朝
廷の勢力範囲を誘導すると同時
に、神宝の行方をくらましてし
まうことです。今日の航空地図
に、神宝が遷座されたという元
伊勢の場所を落とし込むと、三
輪山を中心として南北に約150
km、東西には約270kmも離
れた広いエリアに拡散している
ことが一目でわかります。そし
ておよそ27か所存在するとも
言われる元伊勢の内、7か所は
三輪山から半径25km以内に
存在するものの、残りの大半は
遠方に広がっています。また、
元伊勢の殆どは平坦地にあり、
さらに半数近くは、三輪山の東
方を盾で守るかのごとく、琵琶
湖の東岸から濃尾平野、そし
て松坂、伊勢に向けて南北に
並んでいます。また、吉佐宮、
奈久佐浜宮、そして名方浜宮
は、北方や西方の海沿いの地
に孤立していることにも注視す
る必要があります。海岸沿いの
地で、しかも都から遠く離れる
こと自体、神宝の防御という視
点から見ると極めて脆弱であり、
ましてや外来の渡来者がいつ
襲撃してくるかもわからないよ
うな場所に宮を建て、果たして
大切な神宝を守ることができる
のか疑問です。元伊勢と呼ば
れる地の殆どが、神宝を守護す
るには不向きな、無防備な場
所に位置しているのです。そ
のような無防備な場所であ
ったにも関わらず、元伊勢とな
るべく、聖地化された理由は、
中国にて古代より伝承されて
きた四神相応の思想が影響して
いたのではないかと推測され
ます。四神相応による理想の地
とは、北に山あり、南に沢あり、
東に南流する水あり、西に野
あり、と解釈できます。よっ
て、三輪山を守護するためには、
まず、その四方

を守ることに重きが置かれたのです。三輪山は広範囲で見ると、北方には日本海に向けて山が連なり、真南には熊野那智大社の大滝に代表される沢が存在し、東方は伊勢湾から南方へと注がれる海があり、西方は瀬戸内海の湾岸に沿って野道が続いています。よって、三輪山は四神相応に基づく地勢を有しているという前提において、その東西南北に社を築くことが求められたのではないのでしょうか。そして御巡幸という名の元に、神宝は各地に祀られ、元伊勢と呼ばれるようになったと考えられます。

元伊勢の社となる場所を特定する方法としては、レイラインの手法が用いられることがあり、他の聖地との結び付きから、地の力を結集できる場所が厳選されたケースが少なくありません。その結果、北の端では日本海沿岸にある天橋立のほど近くに吉佐宮と呼ばれる籠神社の地が、そして西の端には瀬戸内海沿いの岡山に、名方浜宮の地が特定されたのです。また、三輪山から見て東方の伊勢湾沿岸にあたる周辺地域も、東方の勢力が脅威となりつつあったことから重要視されました。崇神天皇の1世紀後、景光天皇の時代、日本武尊が東夷の反乱を抑えるために伊勢から駿河へと向かった際、天皇が日本武尊に語った言葉、「東夷は性格が横暴であり、侵犯することを常とし、集落には長も存在せず、境界を奪って略奪をする」が、当時の状況を伝えています。そのような東方の脅威が迫りつつあった時代だったからこそ、多くの元伊勢となる拠点が伊勢湾沿いに設けられたのでしょう。

三輪山の四方を聖地で守った後、崇神天皇が最終的に望んだことは、神宝を安全な場所に秘蔵することではなかったのでしょうか。その為の究極の策が、豊鍬入姫命から引き継がれた倭姫命の御巡幸であったと考えられます。神宝は御巡幸と共に祀られる場所が転々としたことになっていますが、元伊勢の多くは大和国から遠く離れた無防備の場所にあり、国内での不穏な動きもあることから、本物の神宝を長期間にわたり、そのような場所で祀るとは到底考えられません。よって、神宝が遷座された際にはレ

プリカが用いられたはずで、つまり崇神天皇の「壮大な計略」とは、どれが本物かわからないようにレプリカを製造することだけでなく、神宝を遷幸させる場所を複数、選りすぐり、頻りに移動しているように見せかけるも、実際にはレプリカを用いていたというパフォーマンスであった可能性が見えてくるのです。

では、本物の神宝は御巡幸の当時、どこに秘蔵されていたのでしょうか。今日では知る由もありませんが、一時期、四国の山奥に移設された可能性があります。四国については何故かしら史書の記述が限定され、話題にのぼることが殆どないのです。また、人が近づくとできない急斜面の際立つ山岳地帯に囲まれ、石鎚山や剣山のように西日本最高峰の聖山が存在することからしても、神宝を秘蔵する場所として、早くから崇神天皇も注目していた可能性があります。元伊勢の中には、列島内の聖地や大事な拠点がレイライン上で紐付けられようように厳選された場所も存在することから、元伊勢と四国の聖地との結び付きがレイラインで認められるとするならば、神宝が四国にも運ばれていた可能性がより高くなります。

倭姫命の御巡幸とは、三輪山を始点として、朝廷の影響力が及ぶ遠隔地を巡り渡り、最終的に伊勢の地まで辿り着くことにありました。そして神宝は転々と場所を遷されながら、最終的には本物の神宝は、人里離れた地に遷されて温存されるべく、綿密な計画が練られたと考えられます。元伊勢の存在は、神宝が上手にオブラートに包み隠された証とも言えます。それでも神宝が秘蔵された場所は、神が選ばれた三輪山の聖地に紐付けられていることに違いはなく、日本列島内の聖地を結び付けるレイラインを考察していくうちに、ふと、その場所が浮かび上がってくるのかもしれませんが。

神宝の行方を示す元伊勢のレイライン

古代の聖地と地の指標を結び付けるレイラインを考察することにより、倭姫命が御巡幸された元伊勢の聖地が見出された方法を推測することができます。国生みは元来、淡路島から始まり、

古代聖地の多くは淡路島の神籬石や、伊弉諾命が葬られた伊弉諾神宮を基点としたレイライン上に見出されました。ところがその後、神が三輪山で祀られるという啓示があったことから、レイラインの中心も淡路島から東方へとシフトして、三輪山に移り変わったと考えられます。日本の中心は大和国の三輪山と考えられるようになったのです。

崇神天皇の御代、その三輪山を中心とする地勢観に基づき、列島各地に三輪山と結び付けることができる朝廷の拠点を找出すことが目論まれました。朝廷の権力を誇示できる範囲を限りなく広げるだけでなく、全国いたる所で神が祀られることが望まれたのです。そして、レイラインのコンセプトに基づいて遷座の地が見出された結果、元伊勢として知られるようになる神社の多くは、それらレイラインが交差する場所に、ピンポイントで造営されることとなります。

元伊勢と呼ばれる神宝の遷座地は、複数の聖地をレイライン上に絡めた上で見出されていることから、それらの地の利や歴史的背景を検証することにより、時には古代史の流れや、歴史の謎さえも理解する糸口を、掴むことができるようになります。紙面の都合上、本稿では元伊勢の中でも、三輪山より距離が離れた場所に造営された、吉佐宮、奈久佐浜宮、名方浜宮、そして坂田宮に絞って解説します。

崇神天皇の御代、日本列島には既に多くの聖地や、地の指標が存在していました。それらは人が建立した神社、聖山、そして岬の3種に分けられます。神社が建立された聖地として、伊弉諾神宮、花窟神社、宗像大社(沖津宮、中津宮、辺津宮)、宇佐神宮、日前神宮、伊雑ノ浦に隣接する伊雑宮、熊野本宮大社の大斎原、熊野速玉大社、鹿島神宮、諏訪大社前宮と石上布都御霊神社、海神神社が、聖山としては、出雲の八雲山、熊野の神倉山、高千穂、三輪山、天香山、論鶴羽山が挙げられます。また、列島の最高峰として富士山と、西日本最高峰の石鎚山、そして淡路島から見える西日本で2番目の標高を誇る剣山も含まれます。岬については佐多岬、足摺岬、室戸岬が太平洋側の指標として際立つ存在感を示しています。これらの拠点となる神社や聖地を落とし込んだ地図を見ると、列島内でも広範囲に広がりを見せており、レイラインを構成する基盤として不可欠な存在となっていたのです。

元伊勢の歴史は笠縫邑から始まります。笠縫邑の比定地としては檜原神社や穴師坐兵主神社など、これまで複数の候補が挙げられていますが、レイ



ラインの検証から、檜原神社である可能性が高いことがわかります。古代聖地のひとつ、出雲の御神体とも言われる八雲山と、三輪山を結ぶレイライン上に並んで、檜原神社が建立されているからです。単純なレイラインの見方ではありませんが、後に続く複数のレイラインの存在と絡めて検証すると、意外にも信憑性が高いことがわかります。

さて、笠縫邑における33年という長い遷座の期間、神宝について様々な情報が収集され、次の遷座場所が協議されたことでしょう。遷座の対象となる神宝のひとつは草薙剣であり、不思議な力を持つ比類なき神剣であったことから、当初からその扱いには細心の注意が払われたのです。古代の聖地の中でも、剣に結び付く聖地と紐付けることが目論まれたのではないのでしょうか。剣の由緒を誇る古代の神社は、出雲大社(八雲山)、諏訪大社(前宮)、鹿島神宮などが挙げられます。そして、四神相応に基づき、まず北方の遷座地が探し求められ、その結果、吉佐宮、今日の籠神社が特定されたのです。

では、三輪山から130km以上も離れた日本海沿岸の籠神社の場所が、どのようにして見出されたのでしょうか。レイラインを地図上に落とし込むことにより、その根拠が見えてきます。まず、レイラインの基点を、八咫鏡の由緒に富む日前神宮と決めました。三輪山へは距離的にも70kmと近いだけでなく、日前神宮は宗像大社の沖津宮(沖ノ島)、及び論鶴羽山とほぼ同緯度にあり、びたりと一直線上に並ぶことから、きれいなレイラインを構成していることがわかります。また、論鶴羽山は熊野神が石鎚山から熊野の神倉山へ渡られる途中に登られた山であることから、熊野とも結び付くこととなります。さらに富士山と剣山、高千穂という重要な聖地を結ぶ一直線のレイライン上にも、日前神宮は存在するので、よって、列島最高峰と剣山、天孫降臨の由緒深い高千穂、さらには沖津宮と熊野の地の力を引き継ぐ日前神宮の聖地が重要視されたことは、言うまでもありません。その日前神宮から見て、真北でも一番遠い日本海側に遷座の拠点を設けるには、その線上の緯度を定めることになるわけです。そこで、神剣の由

緒を持つ諏訪大社と、大陸への西の玄関である海神神社を結ぶレイラインと、その南北線が交差する場所が特定され、そこに籠神社が建立されたのです。

何故、遠く北に離れた籠神社が遷座の地として選ばれたのでしょうか。前述した通り、四神相応に基づき、日本海沿岸にて三輪山の北方を守る拠点として、籠神社の地が定められたことに違いはないでしょう。しかしながら、レイラインの繋がりを検証すると、籠神社が特定された背景には、さらに深い意味が込められていたことがわかります。その基点となった日前神宮のレイラインには、三輪山と剣山、高千穂を結ぶ線も含まれていることに注目です。すると、聖山としても名高い剣山も、神宝の遷座という重大な神事に関わっていた可能性が見えてくるのです。そして剣山と、古代の聖地、淡路島の伊弉諾神宮を結んで北東方向に線を引くと、それは日前神宮を通る南北のレイラインと、ちょうど麻耶山で交差した後、六甲山を通り抜けていくのです。また、日前神宮の南北線を中心として東西の向きが逆になる三輪山と出雲の八雲山を結ぶレイラインは、檜原神社だけでなく、これまた、麻耶山を通り抜けていくのです。つまり、日前神宮を基点として定められたと考えられた籠神社の背景には、麻耶山が、レイラインの隠れた中心点として存在していたのです。

麻耶山を中心とするレイラインには、日前神宮や籠神社だけでなく、八雲山、三輪山、剣山、高千穂、伊弉諾神宮までもが名を連ねるだけに、麻耶山の存在をもはや無視することはできません。当初、笠縫邑に滞在した期間が33年と長かったこと、神宝のレプリカを複数造るには十分な時間があったこと、そして何にも増して、神宝と関わる聖地である三輪山をはじめ、八雲山(出雲)、諏訪大社、日前神宮、伊弉諾神宮など、極めて重要な聖地に結び付く複数のレイラインが交差する中心点にあったことから、麻耶山こそ、元伊勢が発祥した当時、神宝が一時的に秘蔵された可能性が高い、由緒ある聖山であったと考えられるのです。(文・中島尚彦)

引き続き、他の元伊勢御巡幸地のレイラインについても、<http://www.history.jp.com/>で紹介しています。是非ご覧下さい。



室内でも室外でも活躍する音響機器!

PA10/4

クラシックプロ 商品ID:25720

ミキサー
+
スピーカー
+
マイク(1本)

講演会やイベント、
ステージ用途に最適!
箱を開けてセッティングすれば、
すぐに音出し可能。マイクは
合計4本まで接続可能です!

23,800円
(税込 25,704円)

スピーカーケーブル&
マイクケーブル付属!

他にも色々揃えています!

持ち運びラクラクな
コンパクトセット

※マイク1本付属

PAeZ **34,800円**
(税込 37,584円)
PORTABLE PA SYSTEM

ワイヤレスマイクセット
クラシックプロ
CWM801S PLUS **28,500円**
(税込 30,780円)
送信機内蔵・高音質マイクと受信機のセット!

株式会社サウンドハウス
〒286-0825千葉県成田市新泉14-3 (野毛平工業団地内)
TEL:0476-89-1111/FAX:0476-89-2222
www.soundhouse.co.jp

ショールームでお持ちしています!
サウンドハウス 成田店
〒286-0841 千葉県成田市大竹1630
平日 10:00~19:00
土曜 12:00~17:00
日曜/祝日 休業

カリフォルニアのおいしい水 アクアヴィル

AQUAVILLE

2ケースセット! 計48本

500mlボトル 24本入



2ケース
税・送料込 **1,858円**

※一部離島を除く

携帯でのご注文はこちら

フィットネスハウス ☎0476-89-3111



天然温泉の受付スタッフ募集

【業務】静かな雰囲気温泉施設フロント受付
【資格】車通勤可(大駐車場完備)、未経験者も歓迎
【時間】1日5~8時間のシフト制(応相談)
土日祝日、平日夕方~できる方、主婦・学生歓迎
【給与】時給 900円
【待遇】社保完備、従業員家族を当館へ無料優待
【応募】下記へ電話連絡の上、履歴書を持参ください
※正社員も同時募集、お気軽にお問い合わせください



お問合せ **0476-28-8111**
〒286-0841 千葉県成田市大竹1630 e-mail: info@yamatonoyu.com (担当:採用係)

隠れ家的 大人の 天然温泉 リゾート

大和の湯 - 効能 -

腰痛、神経痛、筋肉痛、関節痛、アトピー、五十肩、
うちみ、運動麻痺、関節のこわばり、肌あれ、くじき、
痔症、冷え症、慢性消化器病、後回復期、切り傷、
疲労回復、健康増進、やけど、風邪の予防など

あじ彩 ~秋の味覚~ ワイン・釜めしブフェア

山梨が生んだ 贅沢な味わい

- 赤ワイン
ルミエール
ルミエール カデット
中央葡萄酒
グレイス 茅ヶ岳
- 白ワイン
中央葡萄酒
グレイス 甲州
原茂ワイン
甲斐ブラン (グラス)...各600円



- たらばガニ釜めし
(香の物、汁物)..... 1,400円
- 鮭いくら釜めし
(香の物、汁物)..... 1,200円
- 木の子釜めし
(香の物、汁物)..... 1,000円

釜めしをご注文のお客様限定
お得な選べるセットもございます

※写真はイメージです。具材は、その日の仕入れにより変わります。
※ご提供までに、25分程お時間いただきます。ご了承ください。



大和の湯 3F 『あじ彩』
営業時間 11:00~22:00(ラストオーダー 21:00)

自然を肌で感じる露天風呂
〈富士見の湯〉



未就学児の入館は
ご遠慮ください
千葉県成田市大竹1630

案内看板



JR 成田駅から1駅の
下総松崎駅から徒歩20分
房総風土記の丘・
坂田ヶ池公園に隣接。
大駐車場完備

価格据え置き

- 入館料 | 平日 : 700円
土日祝: 1000円
※小学生の入館料: 300円(大人同伴の入館の場合)
- 営業時間 | 10:00-22:00
※年中無休(全館禁煙)

WEB サイト案内

日本シティジャーナルをご覧いただきありがとうございます。
本紙のバックナンバーはWEB サイトにてすべてご覧頂けます。
連載中の歴史に関するコラムは最新情報に随時更新して
スペシャルサイト「日本とユダヤのハーモニー」にまとめて
あります。ご意見・ご要望等をお待ちしております、FAXや
ホームページからお寄せ下さい。

日本シティジャーナル : <http://www.nihoncity.com/>
日本とユダヤのハーモニー : <http://www.historyjp.com/>



編集後記

全国各地が集中豪雨に見舞われた今年の夏も、
そろそろ終わりを迎えるようになっています。実は
筆者も雨漏り対策に追われる日々が続きました。
事務所の一つは徳島に構えていることから、
豪雨による雨漏りが屋根から、天井から、とき
には床下からも生じ、ひどい時には倉庫の天井
から滝のように水が落ちてきたのです。現代の
建築技術をもってきちんと施工すれば、雨漏り
など絶対生じないはずですが、古い建物が
多い徳島では修繕にも限界があり、災害対策の
難しさを感じているこの頃です。

NCJ編集長 中島 尚彦
1957年東京生まれ。14歳で
米国に単身テニス留学。ワオートン
ビジネススクール卒業後、ロス
アンゼルスにて不動産デベロッ
パーとして起業。ビジネス最前線で
活躍する。1990年に帰国後、
成田にサウンドハウスを立ち上げる。
現在ハウスホールディングス代表、
日本シティジャーナル編集長を
兼務。趣味はアイスホッケーと
読書。この数年は「日本とユダヤの
ハーモニー」の執筆に勤しむ。

